

# 好きこそものの上手なれ

# 回胴倒錯者

— PACHISLO FREAK —

## 選 択

会員カードに貯められたポイント。それは設定5を打つのに十分なものだった。問題は何を打つかである。与えられた選択肢は「不二子」「イレグイ」「猛獣王」「アラジン」その他もろもろだったが、機械割りも高く手堅く出せた「不二子」は先客がおり、打つことはできなかった。みなさんなら何を選ぶだろうか？ここで私が選んだのは手堅く「イレグイ」。手堅い上に面白い。一撃必殺のATマシンの誘惑もかなりあったが、設定5でも軽く10万負けれる機種よりも、より手堅く確実な勝利がほしかったのである。

本番を迎えた当日、私の台はすでに確保されており、設定の確認もさせてくれて、その7セゲデジタルには確かに「5」と点灯していた。早速遊戯を開始してみる。投資1万もかからずBIIGがヒットし、BIIG中の小役確率も高設定のそれである。大きなハマリもなく着実にメダルは増え続け、いつの間にか頭上のドル箱は満タンになっていた。時間はまだ昼過ぎでこの調子だと3箱はいけそうである。そんな折、徐々に異変が起きていた。台にはなく、体の異変である。昨日より風邪がきびだつたのが、急に悪化してきたのである。目はかすみ、頭はボーッとしてきて、平衡感覚すら怪しくなってきた。自分でどこを触ってみてもかなりの高熱具合が意識もろろうとした私にも容易に窺い知れたのである。これではダメだと休憩を店員に申告し、急ぎ近くの薬局に向かっていた。栄養ドリンクや風邪薬などを買い込み、店に戻る道中でそれらを摂取し再び遊戯が開始されたのである。薬を飲んだから大丈夫と体言い聞かせ、何とか閉店前まで打ち切ることができたのだ。

## 悲 劇

結局流したメダルは3千枚と少し。機会割より若干良い結果ではあったがいまいち、物足りなさを感じていた。あれだけ体にムチを打ってがんばったのにこんなものか。普段3千枚も出れば十分だし、勝ち金も5万は超えていた。しかし状況が状況だけにその物足りなさのほうが大きく心に残ったのである。そしてこれがその後に誤った判断をさせてしまう最も大きな原因となるのだった。

その後も同店に訪れることは多く、再び設定5を打つポイントが貯まっていた。前回はいレグイで確実な勝利を取め、今回も手堅くイレグイで行こうと決めていた。店員に申告し、予約をいれにカウンターへ向かう。するとその予約表には当たり前のよう不二子は予約済みとなっており、空いているのがイレグイと猛獣王だけなのが窺える。そのときふと前回の思いが頭をよぎる。(あれだけ頑張つて3千枚か……。たまには一撃必殺のAT機を試してみようだろうか？設定5だしそうそう負けることもないだろう……。)その判断はスロットで生活をしてきたころにはありえない判断であった。思い切つて猛獣王に予約をいれたのである。

その日の当日も前回と同じく、設定の確認をさせてくれた。ルール上部の液晶には大きく「5」と表示され、俄然盛り上がりも増してきた。

店内音楽とともに遊戯が開始され、私も万枚の期待を胸に勢いよくメダルを投入

する。しかし期待とは裏腹に、投資金額が1万、2万と増え続けていく。まあ設定5だからボーナスには当選しにくいしな、と心でつぶやきながら目的のBIIGボーナスを待ち構えていた。しかし当たらない。頭上のデータ表示機は1000ゲームを越えている。投資も3万は優に超え、4万円になるうかとしていた。これだけあれば足りるだろうと思つて持つてきた現金は5万円……。それも底が見えてきている。さらに設定変更されているので天井も期待できない。このときの私は、なぜイレグイにしなかったのだろうという後悔の念でいっぱいだった。そんな絶望の淵に立たされているときに異変は起こつたのだ。なんとチェリー当選からサバナチャンス(以下SC)に当選したのである。ゲーム数は1100と少し。天井はありえないから、1/256のチェリーに当選したのだろうと考えていた。ほぼ単発でおわつてしまうチェリーSC。せめてもの慰めか……。そうは思っていたが、その後のチェリーでもSCに必ず当選する！これは間違いなく天井状態、ということは前日も設定5で、それを据え置きにした、ということになる。この時期に通常営業でも設定5があるとは思つてもいなかったため、天井に突入した嬉しさよりも、通常営業日でも設定5が放置されていることの喜びの方が大きかった。それらの事実が私の落ちるところまで落ちたやる気を最大限まで復活させてくれたのである。

その天井では約2千枚ほどを獲得し、ようやく投資分が帰ってきた状態になった。また一からやり直しと思うとなんとも言えない複雑な気持ちになるが、こういう台なのでしかたない。しかし悪夢は再び訪れ、再度天井までボーナスという悲惨な事実が待ち構えていた。

無く、背中にはどんよりとした黒い影がくつきり見える。ホールを出ると私は駐車場で空を見ていた。それは雲ひとつない星空だった。自分の背中に張り付いた黒い影を洗い流してもらおうと、私はじっと星空を見つめていたのだ。

## 喜 劇

天井で貯まったメダルは次の天井到達までになくなり、さらにその2回目の天井も瞬殺され、獲得したメダルは下皿にBIIG1回分のみ……。一度復活したやる気は完全に消失し、今度は人間特有の「やけくそ」が始まった。こうなりやけだ！行くところまで言つてやる！スロットをする人はこのような状態に1度はなつたことがあると思う。このときの私もまさにそれだった。とは言つても行くところまで行く現金がない。残りの1万円も既になくなりそんな状態だった。こうなれば銀行か、と考えたときにある人物が現れた。今日猛獣王の設定5を打つよと事前に知らせておいた親父である。親父も天井からの万枚炸裂が忘れられず、今日の私の出玉に過度の期待を膨らませて様子を見に来たのである。私はかかる朝からの経緯を話し、半ば同情され5万円を借りることに成功したのだった。

その5万円を握り締め、両替機に向かう。やけくそ状態であるため、5万円全部を千円札に両替した。台に戻り淡々と遊技再開。そしてそれは延々に続き、本日3回目の天井に到達したのである……。ここまで来ると、悲劇を通り超え喜劇のほかに何物でもない。ボーナス確率は約1/2000。投資は8万円近くに達していた。こうなると

## それぞれの理論

人にはそれぞれ台を選ぶ基準があります。ボーナス確率などのデータを基準に高設定台を探そうとする人、大ハマリ台に好んで座り、そろそろ当たるだろうと考える人、前日出ていた台や、逆にしばらくずっと出ていない台に座る人、ホールの設定変更のクセを読もうとする人、なんとなく出そうと思つた台に座る人、このようにそれぞれ個々が思い思いの台に座ります。いったいどの台選びが正しくて、どれが効果的なのでしょう。か。それぞれ持論が最も正しいと考えているから、自分と異なつた台選びをする人に違和感を覚えるかもしれない。私を述べれば、私は完全確率論者であり、その台の特性の上で、最も高設定である可能性を秘めた台を選んで打っていました。先に述べた例の中でいうと最初に登場する例が最も私に近いといえます。当時はなんの疑いもなく、それが最も正しく効果的だと確信していました。しかし最近はその本当にそうなのか、少し疑問に感じます。

先に述べた例は大きく分けて2つに分かれます。確率と感覚です。データなどを元に台を選ぶのは明らかに確率に絶対的な信頼を置き、その他なんとなく台を選ぶ人以外には確率と感覚が重なつたような印象を受けます。私の兄などは私には理解できない台選びをします。完全になんとなく選び、感覚以外の何者でもありません。それでも勝つことが多く、全く理解できないままに頭をひねるばかり。その反面、その光景に神秘的な何かすら感じることもあります。こういった事例は決して兄だけではありません。そしてその感覚は彼らにとつて確率よりも絶対的な存在であるに違いありません。多種多様な台選び、その時々でどれが正しく、どれが効果的なのか、その決定の判断は一概に確率では語れそうにありません。

私はよくホール内を眺めます。それは、出玉はどうなのか、どういったお客さんが来ているのかなど様々な情報を頭に記録するためです。それともうひとつ、誰がどの台にすわるかなどもチェックします。そしてその台にすわつた理由を考えてみます。その理由はだいたい先述したような感じですが。がむしやりに確率のみで考えていた過去とは違い、そういった多種多様の方々に接していると、自然とそれらを考慮した設定の入れ方になつていきました。あのお客さんはきつこの台にすわるだろう、ではこつちのお客さんはどうだろうか？といった具合です。同時にそれを考慮することは非常に私を悩ますものでもあるのです。それぞれの思考が交錯するホール内で、どこにどのように設定をいれるのか、そしてどのように台選びをするのか、この一連の流れはこの業界の二つの楽しみでもあり、苦渋の判断でもあります。私はふと虫の知らせを感じたとき、設定表とは違つた設定を打ち込んでいます。その判断はまさに確率ではなく感覚です。台選びという勝つための重大なテーマで、ふと何かを感じたとき、いつもと違つた台を選んでみるのも一つの方法かもしれません。その先には、なにか神秘的なものが隠れているように思えるのです。

## A氏プロフィール

三重県出身。三重の高校を卒業後、進学のため大阪へ。学業よりもパチスロに専念してしまいお決まりコースの大学中退。中退後3年間はパチスロで生計を立てる。その後サラリーマンになるも収入はパチスロで。結婚のため三重に戻りホール店員となる。現在は知識と経験を生かし某店で設定師として手腕を振るっている。目押しレベルはスイカの種まで直視できるほどの異常っぷり。

